

何を意味するのであろうか。

「防衛」とは「ソ連の恐威」を強調し、その「恐威」からの日本の「防衛」、「安全保障」という名のもとに、軍事力増強をはかることであらうか。いや、日本人に今、真に必要とされるのは「ソ連の恐威」からの「防衛」ではなく、むしろそのように「被害者」意識を煽り、我々が「加害者」であることに目をおおうことによって、伊藤氏の述べるような「抑圧民族である私達日本人の『人間的なよみがえり』」に日本人が逆行していくことからこそ防衛されなければならない。それはまさに、「アウシュビッツ」、「イスラエルの安全保障」という名のもとにシオニスト国家の殻を一層固くしていくことによってますますパレスチナ問題の解決を遠ざけ、長期的展望におけるイスラエル人の生存そのものを危機に落とし入れることから、非シオニズム化によってイスラエルは防衛されなければならないのと同様である。

「国を愛する」とは、「安全保障」、「防衛」の名のもとに「被害者」意識の殻を固くすることによって軍事力増強を叫ぶことではなく、自国の「加害者」としての、吉留氏のいう「負」の歴史に対して、国民の一人としてその責任を背負う義務を課そうとすることではないのか。ランゲルが「裏切り者」と

のそしりの中で、パレスチナ人のために弁護活動が続けることによって、「加害者」である自国の犯した罪を、当事国の国民の一人として償おうとするように。また、伊藤氏がPさんに対するように。さらに、朝鮮人被爆者の実態調査によって、日本人の「加害者」としての立場を内部告発し、朝鮮人被爆者への償い（施しではない）を訴えていく一部の日本人たちのように。

なぜなら、たとえ短期的展望における「裏切り者」、「売国奴」であらうと、「加害者」である自国の立場を直視し内部告発していくことによって、長期的展望における自国の生存と発展に対する逆行を矯正していくことになるからである。そしてこれこそが、自国を、そしてその国民を愛するということではあるまいか。

パレスチナ問題は、単に、遠く離れた異国のイスラエル人とパレスチナ人との問題、に終わらない。我々日本人は、その鏡に自らを映し出すことによって、日本人のなかのもうひとつの「パレスチナ問題」を問い直さなければならないのである。

—— 完 ——

(49年度生 社会文化)

＝就職委員会だより＝

総合科学部就職委員会

昭和55年度卒業予定者の就職状況をとりまとめるときがきた。例年のように結果を別表で示し、いくつかのコメントを述べる。第一～第三回の卒業生の就職状況は『飛翔』No.15にでているので省略し、代りに大学院修了予定者の就職状況の表を作ってみた。

本年度の就職状況は一般的傾向としては、前年度と大差なく、コース別に見ても前年度と同様で、各コースの特色も見られるようである。しかし、前年度に比べて公務員、教員採用試験の合格率がやや悪くて、留年者が多くなっている。これは中だるみ現象だろうが、勉強の不足や企業などについての研究が不足であるという印象を受ける。実際、厚生補導係にある各方面の企業の資料などを利用した者が少なかったように思う。

以下に気づいた点をいくつかあげておく。

新しい学部紹介の資料ができています。会社訪問の

際、まだ総合科学部のことを聞かれるようだから、この資料は読んでおいて欲しい。就職戦線のパターンは一般企業の場合、文科系と理科系とで異なり、文化系学生の場合は原則としてすべて会社訪問から始まる。理科系の場合は、学部への求人もあるが指導教官へも求人がくる、そして指導教官から推薦された各大学の学生を集めての面接から就職試験が始まる。今年度は幸いにも、推薦された学生は大体採用されたようである。したがって学生諸君は指導教官とよく相談すべきである。

本年度、求人が多く来たのは、自動車販売などの営業部門やコンピュータ関連企業などからであった。専門別に見ると、数理情報系の求人が圧倒的に多く、他には物理系、地学系など理科系の求人が多く来たが、指導学生がいなくて推薦できないと悲鳴をあげる教官があった程である。女子学生の就職に

については、「コンピュータに関する知識があるなら」とか「化学分析ができるなら…」と条件を述べられた企業があったが、やはり厳しいものであった。

委員会としては、学部紹介の資料を持って企業を訪問してみたが、卒業生諸君の良い評判を聞くこと

が相当あり、心強く感じた。しかし、本学部の就職の地盤はまだ固っていないという印象も受けたから、学生諸君は総合科学部のパイオニアとして積極的に各方面の企業に進出して欲しいものである。

卒業生進路内訳（卒業時）

卒業年度 コース 区分	55 年 度					計
	地域文化	社会文化	情報行動	環境科学		
卒業者	29	28	26	27	110	
進学	3	2	2	14	21	
公務員	1	5	0	1	7	
教員	9	0	3	4	16	
企業	10	18	21	4	53	
自営	2	1	0	0	3	
無職	4	2	0	4	10	

大学院修了生進路内訳

院名 修了年度 区分	地域研究研究科	
	54年度	55年度
修了者	6	9
進学	0	1
公務員	2	1
教員	3	4
企業	1	0
自営	0	0
無職	0	3

院名 修了年度 区分	環境科学研究科	
	54年度	55年度
修了者	16	25
進学	3	3
公務員	0	0
教員	2	7
企業	10	10
自営	0	0
無職	1	4

54年度は2月末現在（無職には研究生・聴講生を含む）

卒業時の就職企業名（民間）

地域文化	社会文化	情報行動科学	環境科学
ピアス 上新電気 菱電運輸 国際ライフタイム 段谷産業 愛媛相互銀行 朋屋書店 伊予鉄そごう フジ 東急観光	松下電機産業 第一製薬 三菱アルミシャーリング ヤマハ 宮崎銀行 協栄生命 東海ソフト オリエントファイナンス 三越百貨店 天満屋 イズミ 橋本産業 マツダ中古車センター 経営管理センター 島根県経済農業協同組合	沖電気 日本NCR シャープ ソニー 東洋工業 サンシン 日立コンピュータエンジニア 日立ソフトウェア メルコンコントロールソフトウェア 流通情報センター 農協計算センター 協栄生命 日本フィールドア 福武書店 アトプランナー ジャスコ ユニード	ブリジストンマイヤーズ 日科機 東京電気化学 センチュリ・リサーチセンター

大学院修了生進路先

地域研究研究科		環境科学研究所	
54年度修了生	55年度修了生	54年度修了生	55年度修了生
兵庫県教員 広島県教員 安田女子大学助手 広島市役所 広島県宮島町史編纂室 富士通	広島大学大学院文学研究科 富山県教員 広島電機大学助手 河合塾 国会図書館	北海道大学大学院環境科学研究所 岡山大学大学院医学研究科 広島大学大学院理学研究科 広島県教員 広島大学歯学部助手 日本微生物研究所 沖電気 吉富製薬 イカリ消毒 戸田工業 東日本航測 復建調査設計 東洋情報システム 日本放送協会	大阪市立大学大学院理学研究科 九州大学大学院理学研究科 香川県教員 広島県教員 宮崎県教員 名古屋市教員 岡山県教員 九州共立大学助手 日立製作所 日本電気 日本鋳業 東洋紡績 川崎化成 田村製薬工業 基礎地盤コンサルタント 遺伝研究所 メルヘン出版

学部の記録

— 人 事 異 動 —

<配置換>

1. 1 横山 謙治 (学務第二係)
経理課用度係より

<辞職>

12. 27 石田 和子 (用度係)
木村 裕子 (地域文化)

<編集後記>

総科の教・職員間に、ようやく紙資源のリサイクル運動が定着せんとしている。そのアイデアにならって、ここで『飛翔』のリサイクル運動を提案したい。それは、各人が『飛翔』を読み終えた後(屑籠に入れる前に)、もう一人の読者を見つける運動である。新入生は親元や母校に、学部・研究生は友人や先輩に、教・職員は卒業生や知人へ、それぞれが読み終えた『飛翔』を贈ることにしてはどうであるうか。

四回目の卒業生を送り出す総科のイメージは、まだまだ世間に定着したとはいえない。『飛翔』は伸び伸びと、いや、時にはつまづき、とまどいながらも、若者達が育ち、また育てられている姿を記録して来たつもりである。

任を終えるに当って、この『飛翔』リサイクル運動を提案して、寄稿、編集に御協力、御援助いただいた方々へ深謝の意を表し、かつまた、新委員の方々の御健闘を祈って、バトン・タッチを終えたい。一年間御愛読ありがとうございました。

(広報委員長・田村一郎)

今回の『飛翔』は、卒業される先輩方、新しく、大学生活を迎えられる新入生の諸君を対象にした特集を組みました。

この『飛翔』No.18が、卒業生の方には、総合科学部での4年間の生活最後の記念として、一生残るものになればと願ってやみません。

また、これが、1・2・3回生の方には、学部生活の残りの歳月をいかに過すかの参考になれば良いな、と思っておりますし、不安多き新入生の方には、総合科学部って、こんな風な事をしているのか、といったガイドブック的な役割に一役買えればと思っております。尚、教育実習と社会に出てからの総科生の特集をNo.16で組みましたので、合わせて御利用下さい。

P.29のH. G. H. とは、『飛翔』学生編集委員会の略です。

最後に、卒業生へのアンケートの回収率が40%程度と低く、卒業生の方のすべての意見が出せなかった事が、残念です。以後アンケートの御協力をさらにお願ひします。(53年度生・中上京治)

お詫び

前々号 (No.16) の「学部の記録」—人事異動—で<転任>10.1伊藤 保(英語 講師)新潟大学教育学部講師へとなっていますが、<配置換>新潟大学教育学部講師よりと訂正させていただきます。ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び致します。

編集部

お詫び

前号 (No.17) の「紹介しよう私のサークル」で、「法社会学研究会」の代表となっているのは顧問に訂正させていただきます。また、「婦人論研究会」、「科学論研究会」、「国際情勢を考える会」の代表者については全て削除させていただきます。なお、木本(喜)、仁連、木本(忠)各教官及び読者の方々にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び致します。

編集部

昭和55年度『飛翔』編集委員

教官 田村一郎（外国語） ・ 小林文男（地域）
木本忠昭（社会） ・ 藤原武弘（情報）
三浦省五（外国語）

学生 52生 浜田敏彦（社会） ・ 平岡耕一（環境）
53生 足立哲男（社会） ・ 中上京治（環境）
54生 藤本桂子（地域）
55生 乙武隆司 ・ 大原高志
岡田敏子 ・ 雲井司
成田実香 ・ 広谷義明
松浦豊 ・ 安永省二郎
山上弘二

事務 村中博 ・ 東田操

ご協力ありがとうございました。なお、今後一層の御支援をお願いいたします。